

教育上の課題と工夫

新型コロナウイルス感染症流行により、全国と同様に本学においても臨地実習施設からの実習受入停止や制限などにより、学内実習や遠隔実習、実習プログラムの変更など実習方法・内容の変更・工夫が余儀なくされた。厚生労働省は、国が進める新型コロナワクチン予防接種体制を構築し、医療従事者等へのワクチン接種の推進に呼応して、医学生や看護学生など医療機関で実習を行う学生については、実習先の医療機関の判断で医療従事者向けのワクチンの優先接種の対象になる、と通知した（厚生労働省健康局、令和3年2月16日付）。令和3年5月に本学の実習施設の協力により、本学学生および看護教員は「医療従事者等優先接種予定者」として新型コロナワクチン接種を受けられることになり、本学の実習施設である沖縄県立南部医療センター・こども医療センターで実習予定の学生、実習引率教員が接種対象となった。

6月初旬に私は、学部長の指示により学部リーダー（別科助産リーダーは西平朋子先生）として学生のワクチン予防接種支援を担うことになった。当該施設ではワクチン接種予定の本学教員が、ワクチン筋肉注射を担当することを条件としていた。加えて予診票（当日病院で記入）、10分間隔での接種会場への誘導調整、学生への注意事項等の周知、ワクチン接種後の観察・対応など、これら全てを本学に割り当てられた1時間枠で、対象学生と教員全員が円滑に終了できるように、入念な事前の準備・調整が必要であった。そこで、教員の担当割り振りや関係者との調整など事前の準備を進めた。筋肉注射のシミュレーションによる教員への事前研修と当日の注射担当のとりまとめを栗原幸子先生が担当し、9人の教員が注射担当者として事前研修に参加した。会場受付、学生誘導、予診票担当など接種対象の教職員13人全員が役割を担い、対象学生が円滑にワクチン接種できるように支援を行った。接種日当日（1回目接種：6月11日、2回目接種：7月2日）に学生は、指定の時間・場所に集合し、体温チェックの後に、教員および看護部や事務方の誘導・指示のもと、受付から問診票記入、医師の診察後にワクチン接種、接種後の観察まで、円滑に進めることができ、対象学生全員のワクチン接種が終了した。

今回、多くの関係者の協力のもとに、対象学生（1回目：69人、2回目：62人）と対象教職員が無事にワクチン接種を受けることができた。学生の新型コロナワクチン接種が進んだことにより、後学期10月の実習から、制限があるものの多くの実習施設で臨地実習を行うことができた（2022年1月に急速な感染拡大により再度臨地実習中止となった）。ちなみに今回紹介した施設でのワクチン接種以外に、他1施設においても本学学生への集団ワクチン接種が行われた。

With コロナに向けて

令和4年2月時点において、新型コロナウイルス感染症流行の収束の目途は立っておらず、今後も臨地実習への影響がつづくことが予測される。実習施設によっては、新型コロナワクチン接種を2回終了していることが実習受け入れの条件であったり、PCR検査結果の報告を義務付けている実習施設もある。今後も実習施設と連携し、教員および大学として必要な学生支援について継続して考えていくことが求められる。
